

Title	製薬18社の研究開発投資と投資成果との関係
Sub Title	
Author	森田隆和(Morita, Takakazu) 関口操
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0106">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0106</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 森田隆和

主査 関口 操 教授

副査 片岡 一郎 教授

所属ゼミナール 古川公成 研

古川公成 助教授

## 製薬18社の研究開発投資と投資成果との関係

本研究は、製薬18社における研究開発投資と投資成果との関係を分析することを目的とする。より具体的には、(1) 研究開発投資とその成果はどのように測定でき、いかなる関係があるか、(2) 研究開発戦略と成果とはどのように対応し、成長をもたらす戦略とは何か、という疑問についての考察を試みることである。

データとしては、1部上場製薬18社の2次情報を用い、昭和44年以降の10年間についての2種の分析を行なった。一つは、研究開発投資と投資成果とについての回帰分析であり、もう一つは、経済成果の差によって分類された企業グループ別に、研究開発戦略の類型を比較する分析である。その結果、研究開発投資と投資成果とに関して、(1) 研究開発投資額の増加に伴い、新医薬品数は増加するが、売上高伸び率、売上高営業利益率は変化しない、(2) 売上高伸び率の差は、薬効別の製品集中度、市場伸び率で説明できる、(3) 新医薬品の開発に必要な投資額は、市場規模が大きいほど多くなる、(4) 米国の研究でみられる、小規模企業よりも大規模企業の方が規模の経済性が働いて研究開発に有利という関係は、日本では明確ではない、ということが解った。

さらに、経済成果別の研究開発戦略の類型比較より、成長のための研究開発戦略として、(1) 大規模企業には、市場規模の大きい薬効向の新薬を独自に開発する攻撃戦略が、(2) 中、小規模企業には、規模の小さい薬効に集中して独自または導入により新薬を開発する間隙戦略が提案できた。

以上の研究は、研究開発が企業成長をもたらすための最も本質的な条件は市場への適合であることを示唆している。